

八幡小学校

「生きる力を支える確かな学力の育成」 ～聴き合い 学び合う授業づくり～

I 研究の内容

1 授業づくり

- (1) 「やまなしスタンダード」の2つの視点を取り入れた授業づくり
ア②話し合い、討論、発表などの言語活動を効果的に取り入れている。
③児童生徒は、他の人の話や発表に耳を傾けている。

【特支版】

- ②障害の状態に応じて自ら考え、判断し、表現する活動を具体的に取り入れている。
- ③自主的・自発的な学習を促す教材・教具等を用意している。
- ④達成感や自己肯定感が高められる指導を工夫している。

イ「主体的・対話的で深い学び」の実現（1人1実践授業を実施）

2 学力向上等の取り組み

- (1) 「情報交換」の場で、児童の家庭学習の様子や、家庭学習や教科指導の効果的な取り組み、教材教具の工夫・活用、授業づくり・学級力作りの手立てなど、お互いの実践例を発表し合い、年間のまとめを研究紀要に記載

3 その他

- (1) 授業づくりに向けての学習会を実施
- (2) プログラミング教育学習会を実施
- (3) 研修会の還流報告

II 研究の具体例

1 授業づくり

- (1) 授業研究会 ※対話リフレクション・集団リフレクションによる研究会を実施

10月 4学年 算数科「計算のやくそくを調べよう」 指導者 中澤 友紀
指導・助言 教育センター 指導主事 富士池 慎一先生

12月 1学年 国語科「じどう車くらべ」 指導者 赤荻 美弥
指導・助言 教育センター 指導主事 小林 千由紀先生

- (2) 1人1実践授業（10月～12月）

全学級で、「やまなしスタンダード」②の視点を取り入れた授業（算数科，国語科，社会科，理科）を実施した。

- (3) 「やまなしスタンダード」の視点を取り入れた授業公開（2月19日）

第3回山梨北中ブロック交流会で、「やまなしスタンダード」②の視点を取り入れた授業（算数科，音楽科，生活科）の授業を公開し，研究会を実施した。

2 学力向上の取り組み

- (1) 「きりっこノート」の種類を20種類から27種類に増やし，市販教材のコピーも自主学習のひとつとして認めるなど内容の弾力化を進め，児童が取り組みやすいようにした。
- (2) 家庭学習の主旨について理解を深めてもらえるように，家庭向きに手引きを出し，家庭との連携を強化した。
- (3) 「8」の付く日に「きりっこノート」を綴った「きりっこファイル」を持ち帰らせ，保護者にコメント記入をお願いした。
- (4) 学級や職員室前の廊下にノートを掲示するコーナーを設置したり，掲示されたノートを校

長が評価し校長室で「がんばりカード」を配布したりするなど、児童の継続意欲の向上を図った。

3 その他

(1) 授業づくりに向けての学習会（6月24日）

峡東教育事務所 指導主事 中村英彦先生をお招きして、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり」というテーマで、教材選びのポイントや授業展開の具体例、子ども同士の意見をつなげるための教師の言動について学習した。

(2) プログラミング教育学習会

昨年度教育センターの情報教育部で研修員をしていた畠山先生を講師に、3回のプログラミング学習についての研修会を実施した。

6月19日 「プログラミングを体験しよう」

・Scratchの体験

7月10日 「プログラミング教育について」

・プログラミング的思考について

・各学年の教育課程の具体例

1月22日 「八幡小学校のプログラミング教育計画」

・年間指導計画の具体例

・教材の紹介 ルビィーの冒険 きのくに ICT教育 ほか

(3) 研修会の還流報告

校内研の時間に情報交換の場を設け、参加した研修会の還流報告や参考になる実践例、最新の情報などについて発表し、参考とした。

III 成果と課題

- 八幡小児童の課題を把握し、課題解決に向けたサブテーマを決定し、研究を進めることができた。授業づくりの研究では、児童が自分の考えを持って学習に参加することで、より互いの意見を聴き合うことができるようになり、学び合いにつながることを検証することができた。
- 2つの研究授業や1人1実践を実施することで、各学級で「主体的・対話的で深い学び」や研究テーマを意識した授業実践をすることができた。児童同士の学び合いを取り入れることで学びの質を向上させるとともに、互いに授業を見せ合うことで職員同士も学び合い、自身の授業改善につなげることができた。
- 自主学習シートの形式を、より児童のニーズに合ったものに改良したり種類を増やしたりすることにより、児童がより学習に取り組みやすくなることができた。
- 自主学習ノートを掲示することで、お互いに賞賛し合うとともに、学習の参考にすることができた。掲示されたノートを校長室でプレゼンしたり、学校長よりカードをもらえたりすることで、意欲の向上を図ることができた。
- プログラミング教育の学習会を実施することで、実際の指導の様子や学習内容、教育課程の見通しができるようになり、実施に向けての準備をすることができた。
- △授業実践が充実していた半面、全ての授業を全員が参観できたわけではなく、各々の実践報告の時間も十分に確保することができなかった。成果の共有という面では課題が残った。
- △授業改善、家庭学習、学級力向上、補充的学習、新教育課程への対応など、研究内容が多岐にわたり、全てを網羅していくのは厳しい状況である。限られた時間の中で何を重要視するのか、研究内容を精選していくことが必要である。

IV 成果物

- 1 各学級授業実践報告書
- 2 「授業づくり」「学力向上の取り組み」各学級の取り組みと成果・課題
- 3 「プログラミング教育」資料

(研究主任 山元和香子)